

平成27年度 第3回日本粘土学会評議員会議事録

日 時：平成27年7月25日(土) 15:05-17:10

場 所：早稲田大学理工キャンパス 55号館N棟1階 第1会議室

出席者(順不同, 敬称略)

黒田, 山崎, 八田, 河野, 千野, 上原(元), 中川, 亀島, 林, 地下, 鈴木(正),
志々目, 佐藤, 宮脇, 田村, 岡田, 日比野, 川俣, 万福, 高木, 高橋, 土信田(事務局), 篠原(記)

1. 報告事項

- (1) 粘土科学の発行・編集状況(鈴木(正)): 第54巻1号の発行予定(8月)に関して報告された(別紙).
- (2) Clay Science の発行・編集状況(高木): Vol.18 No.3以降 Vol.19No.2までの発行状況と予定について報告がなされた(別紙). 発行に数ヶ月の遅れがある.
J-stage Light の内容説明(小規模学会対象, 秋頃か)が求められた. DOI取得は雑誌格付けでも重視されているようである.
- (3) 会計(志々目): 平成27年度会計中間収支状況が報告された(別紙).
- (4) 行事(川俣): 審議事項に含めて報告することとなった.
- (5) 国際協力(佐藤): ①AIPEA Educational Course がVol.2まで出版されたことが紹介された. ②第3回 Asian Clay の開催日程が2016年11月18日(金)~20日(日)と決まり, 日本側組織委員として, 佐藤(資源), 河野(地質), 川俣(化学), 田村(材料)各会員が協力することが報告された.
- (6) 企画
 - ①標準粘土(宮脇): 標準粘土の購入依頼状況が報告された. 新規候補試料のキャラクターゼーション結果を第59回粘土科学討論会で発表することが報告された.
 - ②シンポジウム(田村): 審議事項に含めて報告することとなった.
 - ③ホームページ(岡田): 特になし.
- (7) 庶務 会員動向(篠原): 会員の動向に関して報告された(別紙).
- (8) 連合等(篠原): 日本地球惑星科学連合の状況と, 日本学術会議情報として学会誌の authorship の在り方と二重投稿禁止に関する規定の整備が求められつつあることが報告された.
- (9) 事務局(黒田): 事務局からの共催・協賛依頼について報告された(別紙).
各地博物館で継続中の北川隆司鉱物コレクション特別展の案内があった(宮脇)
- (10) その他 特になし

2. 審議事項

- (1) 第59回粘土科学討論会について

川俣行事委員より予算案とプログラム案の報告があった。申込み数は現在の実数を基にしている。取り下げ、0⇒Pの変更要請などが現在も続いている。要旨印刷締め切りが逼迫しており待てないので注意。また、提案型セッションは、審査により3件から2件を採択した。要旨集両方ほしい場合は追加料金をいただく。会場のネット利用は可能。

(2) シンポジウムについて

田村委員より特別講演、シンポジウムに関して説明された。日比野委員より企業向けシンポの説明がなされた。終了後、若手の会が行われる。

(3) 粘土科学討論会に関する申し合わせ事項について

河野常務委員長より粘土科学討論会に関する申し合わせ事項の改訂案（別紙）として、現行の開催経費への変更、シンポジウム等講演者への対応、講演募集方法で現状に沿った内容への改訂説明があり、一部の語句修正を常務委員会に一任したうえで改訂が承認された。

(4) 名誉会員の推薦について

黒田会長より、渡嘉敷義浩会員、鳥居一雄会員、山岸@彦会員の推挙が報告され推薦が承認された。

(5) その他 特になし

3. 協議事項

(1) 平成 27 年度日本粘土学会賞等選考結果

八田委員長より選考の経過と結果について報告された。学会賞は佐藤努会員の「粘土および粘土鉱物の変質と有害元素との相互作用の解明およびそれらの機能的活用」に、功績賞は昭和 KDE (株)、クニミネ工業 (株)、関東ベントナイト鉱業 (株)、(株) 勝光山工業所、斐川礦業 (株) 5 社の「標準粘土試料を通じた粘土科学発展への貢献」に、奨励賞は井出祐介会員の「層状ケイ酸塩を分子認識助剤に用いる新規光触媒系の創製」と佐久間博会員の「X 線表面散乱と分子シュミレーションによる粘土-水界面の描像」に、技術賞は大和田朗氏・佐藤卓見氏・平林恵理会員の「粘土および鉱物の脆弱試料に対する薄片作製法の開発」に授与することが了承された (別紙)。

(2) 平成 27 年度論文賞選考結果

八田委員長より選考結果について報告され、「合成サポナイトの層間に取り込まれた字アセチレン誘導体の二光子吸収特性 (粘土科学 53(2), 63-67)」, “Vertical distribution of radiocesium in sidebar deposits of the Utsushi and Agano rivers, Japan (Clay Science, 18, 43-52)”, “Real-time-resolved X-ray absorption fine structure spectroscopy for cesium adsorption on some clay minerals. (Clay Science, 18, 99-106)” の 3 編の受賞が了承された (別紙)。

(3) 平成 27 年度日本粘土学会学術振興基金賞選考結果

山田委員長による選考結果が報告され、菊池亮佑学生会員 (Euroclay2015,

“Cs-sorption into weathered biotite from Fukushima granitic soil”) と櫻井敏樹学生会員 (Pacfichem2015, ” Formation of vortex-shaped orientation of niobate oxide nanosheet liquid crystal by irradiation of an optical vortex”) の選考と承認が了承された (別紙).

(4) 法人化委員会からの報告

八田委員長より一般社団法人化に伴う委員会での検討経過の説明と、定款、会員規定、会費規定、役員選出規定の各案について説明がなされた (別紙). 6部門の会員区分の名称変更、設立時社員、評議員の身分、総会決議数、会長代理副会長の名称等の現行会則・規則と異なる部分を中心に説明が行われた. 定款案・各規定案の条文を確認し以下の点を中心に協議され、最終案とすることが確認された.

- ・ 議決数の適切な範囲.
- ・ 総会開催日程の定め方.
- ・ 常務委員長が理事であることと、2期連続選出までの選挙規定との整合性
- ・ 6部門の名称中、建設、建築、環境の取り扱い
- ・ 標準粘土の会計処理方法.

(5) その他：特になし

以上